

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>○児童一人一人が自分の夢の実現に向けて意欲的に学び合える学校</p> <p>○確かな学力や規範意識を身につけ、誰に対しても思いやりのある言動ができる心豊かな子ども</p> <p>○児童一人ひとりのよさを伸ばそうと日々学び続け、子どもや保護者・地域に信頼される教員</p>		<p>個に応じた指導の展開</p>	<p>○今日の学習は分かったのかどうかを児童自身が明らかにできる45分の授業づくり(場の設定)。 ○中間評価を取り入れた単元計画と、定着が図れているかどうかを明らかにする学習の展開。 ○その日の授業の課題と家庭学習との連携。</p>
		<p>自尊感情の高揚</p>	<p>○特別の教科道徳を中心に、自分の心と向き合う場面を設定した心の醸成を図る授業づくり。 ○自分のよさや友達によさに気付く取組の推奨。 ○よい言葉遣いや行動を意識させる取組週間の設定。</p>
		<p>保護者・地域・関係機関との連携強化</p>	<p>○学校の教育活動の積極的発信の工夫。 ○個人面談及び学習懇談会の持ち方の工夫。 ○中学校ブロックの連携の強化(義務教育9か年を見通した取組)。</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
「分かる」授業づくりによる学力向上～算数科を中心に～	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の45分の授業に「確かめ問題」を位置付け、児童自身が本時目標を達成できたかどうかを確かめる。実施率9割、児童肯定評価8割。 単元途中で中間評価を位置付け、児童の「分からなさ」を改善し基礎基本の定着を図る。学期末テスト平均得点80点75%達成。 学習調査等の結果分析と改善策を共有する研修を行い(夏季休業中)、補充学習及び家庭学習で計画的に改善の取組を行う。 1月に取組の総まとめとして標準学力調査を実施し、算数科の課題を明らかにする研修を実施して(学年末休業中)次年度へ繋ぐ。改善率7割目標 	<p>○45分の学習過程に「めあて」「まとめ」「確かめ」がほぼどの学級も位置付き、児童が分かったどうかを確かめることができるようになってきた。 ○重要単元を中心に各学年「中間評価」を取り入れた取組を行った。学期末まとめテストが低学年90点以上8割、高学年85点以上8割は83%達成できた。 ○全国学力調査及び学習定着度調査の結果については、6年生国語「やや上回る」算数「やや上回る」5年生国語「やや上回る」算数「上回る」4年生国語「やや上回る」算数「やや上回る」3年生算数「上回る」とどの学年も全国及び市の平均を上回った結果になったが、課題を家庭学習と連携して改善に至るところは十分にできていない。 ○全校一斉に学力調査を実施することができた。個人票の配布に併せて課題解決の学習プリントを準備し配布したが、改善を計ることはこの段階ではできていない。次年度の学習のレディネスで定着を見る予定。</p>	
自尊感情の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳の学年の目指す姿を明確にし授業改善を学期1回実施し、児童の道徳性を高める。目標達成率7割。 正しい言葉遣い及びふわふわ言葉多用の取組週間等を計画し、やさしい言葉かけができる子どもの育成を図る。児童肯定評価8割。 各教科の中に人権の視点を盛り込んだ授業づくりを行い、人権に関する学習の参観学習で各学級公開する。 石丸小学校の人権教育の取組を保護者・地域に積極的に発信して共有し、共に子どもを育成できるようにする。実施率8割。 	<p>○特別な教科道徳については、各学年単元を決めて授業づくりを行うことができた。次年度は道徳性の高まりの見取りの姿を明確にする。 ○取組週間を行い、各学級でもふわふわ言葉の多用を目指して取組ができた。やさしい言葉かけをしようという意識は高まった。 ○各教科の中に人権教育の視点を意識した授業を心がけることができた。人権に関する学習の授業参観では、各教科、特別の教科道徳で公開することができた。 ○人権教育の取組については、学校便り及び学年・学級便り等で保護者や地域に伝えることができた。ただ、伝える方法が毎年同じなので、次年度は機会を捉えてもっと積極的に発信していき、共に子ども達を育てる視点を明らかにしていきたい。</p>	
「共育」の推進と小中連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 石丸小学校の教育活動の積極的発信を行い、保護者・地域と情報交換・共有を深化させる。保護者・地域の肯定評価8割。 中学校ブロックの連携を図る取組として「運動会サポートプロジェクト」を計画運営する。児童・生徒肯定評価8割。 算数の丸付け隊をはじめ各教科等の教育活動に積極的に地域人材を活用する。地域人材バンクの登録を1.5倍。児童肯定評価7割。 地域行事への児童参加を増やす取組を行う。参加率の1.5倍目標。 	<p>○学校便り、学年・学級便り等で保護者・地域に積極的に教育活動を発信した。更に、学校ホームページをほぼ毎日更新し、日々の取組を積極的に発信するよう心掛けた。 ○下山門中学校ブロックの連携を意識した情報交換を下山門中学校及び下山門小学校と積極的に行うことができたので、生徒指導面での共通理解を図ることができた。更に、運動会に下山門中学校に通う卒業生を運動会サポーターとして起用できたので安全な運営がより行えた。また、中学生にとって自尊感情を高めるよい機会となった。 ○特に低学年の生活科の学習で、教育サポーターとしてシルバー大学の方々を中心に協力して頂いた。たくさん褒めて頂き、児童の学習意欲が高まった。今年度は新たに3年生の毛筆習字にも協力頂いた。 ○地域行事に児童が活躍する場を作って頂いたが、行事への参加についてはもう少し連携が必要だった。</p>	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> 学力向上については、成果指数が示され、ほぼ達成できているのでよいと思う。学力向上についての取組も色々工夫されていてよい。 5つのあたり前など、同じことを学校全体で取り組んでいるので成果が出ている。 学年主任等会を設定し、学年主任等の指導力を高める研修を行っているのはとてもよい取組である。教員研修の充実は、子ども達の学習意欲の高揚や学力向上に大きく影響するので、校内研修や校外研修と併せて行っていくとよいと思う。 挨拶が以前よりよくできるようになってきたと思う。 学力向上も生徒指導も、計画的に取り組み、改善しながら次の取組に繋ぐのがとてもよい。 			